

9月1日は防災の日

今年の夏は、日本各地、「猛暑」に見舞われました。気温が35℃以上となる日が続き、熱中症にかかわるニュースが連日報道されました。

本校でも、熱中症対策として夏休みに予定していた音楽教室・水泳教室を3日間から2日間とし、水泳時間は短縮しました。東舞子夏まつりでは、矢倉の設置を取りやめ、キッズカーニバル・盆踊りは、空調設備のあるクラブハウスで行いました。

まだまだ残暑が厳しいです。こまめな水分補給やエアコンの使用など熱中症予防に気を付けてまいります。ご家庭では、お子さんが十分な睡眠と栄養を取ることができるように、健康管理にご留意ください。

さて、9月1日は防災の日です。そこで、「防災」という観点から1学期を振り返ってみたいと思います。

まずは、6月18日午前7時58分に起きた「大阪府北部地震」です。マグニチュード6.1、震度6弱の大きな地震でした。神戸でも震度3～4の揺れを感じました。

本校では、登校時間帯で学校に来た児童から運動場に直行し、待機しました。突然のことでしたが、児童は冷静に運動場に集合し、クラス単位で整列できました。数人の教師が、登校中の児童の安全確認に手分けして走りました。

登校は8時から8時20分の間になっていますが、20分を過ぎてもまだ全員の出欠はわかりませんでした。電話連絡、兄弟や普段一緒に登校している児童の情報を集めて、全員の安全が確認できたのは8時35分でした。

その後余震の情報などを収集し、今日一日安全を確保するための行動を全校生で確認し、9時に入室しました。いつ余震が起きても、その場で安全を確保し避難することを第一に過ごした1日でした。下校時は、時刻をそろえ教師が地域まで見守りに行きました。

続いて起きたのは、「7月の集中豪雨」です。台風と梅雨の影響を両方受け、西日本を中心に大きな被害を受けました。

神戸でも7月5日（木）から4日間大雨洪水警報が発表され、本校では5日（木）・6日（金）と臨時休校となりました。

この豪雨により、西日本を中心に多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災

害が発生し、死者数が200人を超える甚大な災害となりました。

神戸では、48時間の降水量が観測史上最大となりました。また浸水害、土砂災害が起こり、道路が寸断され、交通機関がストップするなど大きな影響がありました。安全確保から避難勧告・避難指示も相次ぎました。

豪雨は過ぎ去っても、被災地では、警察や消防などによる捜索・救助や復旧作業が今も続いています。

地震・豪雨どちらの災害にも言えることですが、日常では起こりえないことが起きるのが、自然災害の脅威です。

日常生活の中で、「まさかこんなことは起きないだろう。」と思う（もしくは、「こんなことは起きてほしくない」と願う）のが普通なのですが、そうではなくて、あらゆる危険を想定していなければならないと今年の自然災害を通して強く感じました。

「防災の日」を機会に少しでもご家庭で自然災害について話をしていただき、「防災」を身近なものとして捉えていただけたらと思います。

今年は、9月12日（水）に消防署や地域の防災福祉コミュニティとの共催で、防災訓練を行います。この日は、防災全般について体験・学習する大切な時間を過ごします。

初めに避難訓練を全校生で行い、その後に6年生を対象に防災訓練を行います。火災による煙体験、消火活動、救出搬送訓練などが予定されています。また、今年度から1年生を対象とした地震についての紙芝居も行います。各訓練で、消防署の隊員の皆さんや消防団の皆さん、地域の防災福祉コミュニティの皆さんが、丁寧に指導にあたってください。

この訓練を通して児童の防災に対する意識を一層高めていきたいと思っています。

(防災担当 斉藤 浩樹)

防災グッズの点検と確認を!

